

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 1 月 31 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100843		
法人名	医療法人 好縁会		
事業所名	グループホームふれあい戸坂東		
所在地	広島県広島市東区戸坂千足1丁目12-46 (電話) 082-220-3000		
自己評価作成日	令和5年12月21日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100843-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100843-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年1月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「その人らしい生活作り」を目指し、人として当たり前の生活作りを念頭に利用者様主体の生活を送って頂けるよう支援している。1階2階の垣根をなくし全職員で全利用者様のケアにあたる体制作りを整え施設全体で交流できるよう取り組んでいる。利用者様の個々の「望み」が最大限叶えられるよう誕生日にはご希望の場所へ行くことや食べたいものを召し上がっていただく等、個別的な対応を心掛けている。また暦に応じた各種イベントも充実しており四季折々に応じた旬の食材を使用したお料理の提供、毎月の行事を通して季節感を味わっていただいている。コロナ禍も明け地域のイベントへの参加も今後再開し地域に根ざした事業所作りを目指していく。また法人の医療と看護と連携し日々の健康管理や急変時の対応等も医師、看護師と密に行うことが可能なので、安心して生活頂けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

感染状況の時勢に合わせ、馴染みのある縮景園や折り鶴タワーなどへの外出を再開し、誕生日には「ラーメン店でラーメンを食べたい」との希望を実現させる等、個別の外出支援にも取り組み、楽しみや変化のある生活作りを工夫している。本年度の事業所の取り組みの一つに「ケア・サービスの質の向上」を掲げ、職員間で話し合いながら、チームケアの強化・多職種との連携・その人らしい生活の提供などに力を入れている。ユニット毎の垣根を作らず、全職員が別ユニットの利用者にも顔馴染みとなっており、その人らしさを大切にされた個別の対応が出来る体制となっている。近隣の介護事業所との繋がりを継続し、運営推進会議を通じて情報交換を行いながら事業所自体が地域の一員として地域交流に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービス事業所としての行動指針・法人の基本理念・運営方針を事業所計画の重点項目として掲げ、各階事務所に掲示し全職員が目の届く位置に配置している。また全職員へ配布しこれを基にした個々の目標と連動させ実践に繋いでいる。	法人の理念・運営方針・ビジョンなどをもとに事業計画を掲げ、各職員は具体的な取り組みを作成し、半年毎に管理者と共に振り返りを行っている。ミーティング時に事業計画に対する職員の気付き等を話し合い、作成した取り組みが更に身近に意識できるよう工夫している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナも緩和され徐々に地域行事も再開されてきており今後少しづつ参加予定としている。近隣のレストラン等と接点を持つことは開始し、近くの公園や寺院への参拝にも出向き戸外での地域交流が行われている。外周清掃時には地域の一員として日常的に挨拶を交わし関係を築いている。	散歩時や事業所周囲の清掃・草取り時には、地域住民と自然な挨拶を継続している。今後は、地域で再開される行事の情報を得ながら、状況に合わせて参加を検討予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症実践者研修の受講を積極的に進め、認知症についての理解を深め、お問い合わせや訪問時、面会時等での相談事にも誠意を持って対応している。今後法人内の地域貢献活動への参加を視野に地域の人々への発信を目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の報告や議事録は家族様に必ず報告し、その内容における意見交換を実施している。また地域での取り組みや行事を積極的に取り入れるよう努めている。コロナ5類後における各所の活動内容を共有しサービス向上に活かしている。	現在は通常開催となっており、利用者・家族代表・近隣の介護事業所の職員・地域包括支援センター・地域住民代表(予定)等の出席がある。感染予防と共に「脱水症予防の重要性」について意見交換し、更にケアを充実させた例がある。議事録は毎回、家族に配布し共有している。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険申請等市町の窓口を訪ねた際に関係を構築するよう心掛けている。また推進会議の議事録を東区役所介護保険係宛に郵送している。地域包括支援センターとは密に連携を図り良い関係が築けている。	運営推進会議を通じて、利用者が参加できる行事やボランティアの演奏会など、地域包括支援センター職員から地域の情報を収集しており、市町との協力関係に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束等禁止委員会を設置し、身体拘束の危険性やどのような行為が身体拘束にあたるのか等を、研修や勉強会によって全職員が定期的に学び、ケアにおいて実践するよう周知徹底を行っている。玄関の施錠も行わず常に空気の通る施設作りを心掛けている。</p>	<p>年2回の研修、月1回の身体拘束防止会議、また必要時には個別の会議を開催し、拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は、とっさの語調や言動が不適切な対応にならないよう、普段から職員の意識付けに努めており職員間でも注意喚起を継続している。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止委員会を身体拘束禁止委員会と兼ね設置し定期的に研修を重ね学んでいる。どのような行為が虐待にあたるのかを知り問題の解決案を探るなど全職員が共有、周知徹底している。絶対に行わないことを基本とし、撲滅を図っている。また次年度よりの義務化を踏まえ担当者の設置を進めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>制度の理解を研修等で学び、具体的なニーズが発生した場合は、必要とされる制度利用について分かりやすく説明し、関係者が活用できるよう支援している。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書及び契約書、同意書等提示し、対面にて具体的に丁寧な説明をするようにしている。利用者様自身や家族様からの不安や疑問点等、相手の立場に立ち可能な限り解決に向け話し合い、納得が得られるよう努めている。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者様からは日常的に可能な範囲で意向確認をし、家族様からは面会時・メール・電話等で意見を頂戴している。また月に1度のモニタリング時にご意見を伺い反映している。運営推進会議においても家族様からの意見を頂戴し、運営に反映するよう努めている。</p>	<p>利用者の状況変化があった時だけでなく、月1回以上、メール・電話にて家族に報告し、意向や意見を聴き対応に努めている。外泊の要望があった際、感染に十分な配慮をしながら柔軟に対応した例がある。今後も意見をより現場に反映できるように家族会の再開を企画予定である。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者も申し送りノートの確認また個別メモにて個々の意見や要望、提案を聞く機会を随時設けている。リアルタイムで聞き取ることができるよう努め、必ず話し合っって運営に反映している。また必要時にはアンケートをとり全体会議などで集約、反映している。	管理者は全職員が要望・意見を出し易いように配慮し、必要時はアンケートにて全体会議に反映させている。時には緊急ミーティングを開き、皆で振り返りや改善案を出し合いケアに繋げている。おやつ作りや散歩など職員からの急な提案も実現出来るよう管理者はサポートに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の評価制度を設け賞与・役割給・昇進・昇格・人材育成等、又異動配置にも反映させる仕組みを整え、やりがいや向上心を持って働ける職場環境となっている。外部研修制度も設け費用の補助が受けられる。リフレッシュ休暇7日連休の取り組みも定着している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJT制度を設け、新入職員や中途採用者にも育成のシステムを講じている。法人内での年間を通して組み立てられた研修では、個人の都合で働きながら自由に選べる仕組みとなっている。外部研修補助制度も、意欲やスキルアップを応援する制度が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、近隣他施設へ定期的に出向き情報交換等により連携を図っている。行事など合同開催もしておりネットワーク作りに努めている。コロナ5類に伴い更なる関係構築に努めたい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面接時には本人様とのコミュニケーションに重点を置き、サービス利用に関する心情や意向をお聴きしている。また入居時には既入居者との関係構築のため、席の配置や共同での作業、一人の時間等に配慮し職員が間に入りスムーズに馴染んでいただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前、事前面談の段階で、サービスに対する思いや要望等をご家族の立場に立って細かく伺い、思いを汲み、信頼関係を構築するよう努めている。また不安や要望等少しでも疑問に思ったことはいつでも聞いていただけるよう面会時や電話での個別対応もおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時に状況を把握し、入居前には自宅や病院に事前面談に出向き、必要なサービスの提供や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様への尊敬の念を忘れず、意思や人格を尊重するよう努めている。又、ご自分で出来る事はしていただき、出来ない事を職員が手助けをし、自立支援に向けた関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が面会に訪れやすいように環境設定や雰囲気づくりを心掛けている。ご本人を主体に情報交換を行い、ケアに反映することや緊急時の連携等を共有し、共に本人を支えていく関係の構築に努めている。コロナ5類後には外出等ご協力いただき絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ5類後、面会の規制を緩和し続柄における制限を解除し徐々に親族以外の面会等が増えてきた。馴染みの関係性が継続できるよう外出支援も個別的に実施している。また知人や友人に気軽に来所していただけるよう文書や電話連絡をおこなっている。	感染状況の時勢に合わせた面会の方針のもと、徐々に知人の来所があり次の面会に繋がるよう雰囲気作りに努め、電話や年賀状などを手伝い、これまでの関係性を大切にしている。また他ユニットとの利用者とも顔馴染みとなっており、関係性が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係性を把握した席配置や会話が弾むよう臨機応変に配置交換を行い対応している。各階の垣根をなくし全体での交流が日常となった環境作りを行っている。行事やイベント等も合同で開催し関わりを深め支え合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	管理者交代後サービス利用を終了されている利用者様はいない。終了後も関係性を保ち気軽に双方が相談や支援できるよう利用時の信頼関係を構築しつつでも相談できるよう努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各ご利用者様の思いや希望を最大限叶えていただけるよう意向の把握に努め反映している。特にお誕生日には外出支援や好みの物を用意するなどしている。意思疎通困難な方も含めて生活歴を把握しご家族の協力をいただきながら個々のご希望に沿った対応に努めている。	日々の関わりの中で利用者の思いや希望の把握に努めている。誕生日には、各利用者の担当スタッフが中心となって本人が望む物や外出先などを把握している。要望の表出が難しい場合は、生活歴を見返したり、家族から情報を得るなど、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用開始前面談にて、ご本人・ご家族から情報をお聞きし、馴染みの生活環境にあったお部屋作りに努めている。生活歴を詳しく知ること、その人らしい生活が送れるようサービスの提供に努めている。(ライフストーリー)		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりのその人らしい過ごし方を現状に即した状況で毎日細やかに観察を行い、記録し共有している。個々の状態を毎月のミーティングで共有し特に変化のある方に関しては都度柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>原則1ヶ月毎のモニタリングを基に、ご家族の意見も反映しつつ職員間で見直しを行い、現状にあったプランの作成に努めている。体調の急激な変化等があった場合は随時見直しを行っている。また適宜医療スタッフやリハビリスタッフの意見反映に努めている。</p>	<p>本人・家族の要望をもとに担当スタッフや医療関係者から情報を得て、計画作成者が介護計画を作成している。「本人にシェーバーを渡す」など利用者の持てる力を活かす具体的な計画作成に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>活動の記録や介護の実績、本人様の発した言葉や体調などをケア記録アプリに記録し、更に工夫したいことや成功事例等全職員で共有、現場への反映・実践・見直しに活かしている。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存サービス外のニーズに対しても可能な限り対応している。コロナ5類後においては個別外出支援をはじめ、リハスタッフの導入等、他職種との連携を図りながら、柔軟な支援に努めている。個々の要望を最大限叶えられるよう努めている。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>周辺のフォーマル・インフォーマルを問わず、医療、消防との共助、連携を図り、安全で快適に暮らしていけるよう努めている。馴染みのある店や場所にランチ外出、行事外出、買い物、ドライブ等、豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう支援している。</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>主治医との関係性は継続し、本人様・家族様の希望を傾聴しながら、スムーズな受診ができるよう支援している。専門医への受診は本人様、家族様の要望に添い、納得が得られた受診を心掛け、適切な医療が受けられるよう支援している。家族様の要望で職員が付き添う場合もある。</p>	<p>かかりつけ医は本人・家族が選択し、事業所と密な連携体制が整っている協力医療機関をかかりつけ医としている。訪問診療時には必ず管理者が同行し、医師からの情報を職員間や訪問看護師と共有しながら、適切なケアに繋げている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師が定期的（医療連携にて月2回程度）に来所し、ご利用者の体調変化や状態の変化について職員と共有・連携を図り健康管理を行っている。又、24時間いつでも連絡が取れる体制で医療面での協働を保っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、出来る限り管理者が付き添い日頃の状態や急変時の状態について説明している。また早期退院が図れるよう電話にて関係者と情報交換に努めている。コロナ5類に伴い、入院後も定期的に面会に行き入院先看護師等より情報を頂きスムーズな退院に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期の意向、方針等をご家族に書面を基に説明をおこなっている。ご家族やご本人の納得のいく終末期となるよう都度、意向の確認を行っている。週に1度はカンファレンスを開催し、関係者が意見交換を行い、方針を共有したチームで支えるケアに取り組んでいる。	本人・家族の要望をもとに医師が判断し看取りの体制をとっている。職員はこれまで把握してきた好みの環境や話題・音楽など、その人らしい生活の継続と本人のペースを崩さない事を大切にしており、話し合いながらチームケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内研修にて急変時や事故発生に備えた訓練を定期的に受け、実践につないでいる。医療職とも連携を図り、指導・助言に基づいた落ち着いた対応ができるよう日頃より心がけ実践に活かしている。また管理者及び医療職が24時間オンコール体制をとり医療との連携を密にとっている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	最低年2回、災害時等避難防災訓練を実施している。消防署の方にも来て頂き、消火器を使用しての消火訓練等指導を受けている。訓練参加が可能な利用者様も職員と一緒にしている。また運営推進会議を利用し、近隣施設等と意見交換を行い、災害時に備え近隣施設と共助の協定書も交わしている。	災害・火災時の避難防災訓練は、消防署や警備サービス会社の協力を得て、利用者と共に定期的に行っている。運営推進会議に出席される近隣の介護事業所などと協定書を交わし、また事業所の備蓄委員を中心に、備蓄の整備も含め有事に備えている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭においた言葉かけや対応で、利用者様の人格を尊重している。敬うことを原則徹底し、寄り添い接している。接遇委員会を設置するとともに定期的な法人内研修にて意識付けに努めている。	一人ひとりを敬いながら接する事を徹底し、継続に努めるよう管理者を中心に取り組んでいる。共に生活する中で馴れ馴れしい言動にならないように注意喚起や研修・会議においてその都度、軌道修正に取り組んでいる。職員間の伝達時は、特にプライバシーの確保に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや感情を自由に表出できるような雰囲気づくりを行い、自己決定できるようにし、話しやすい環境を作っている。思いの表出が困難な方へは職員がその人の立場になって考え、思いを汲むようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一律スケジュールに合わせるのではなく、利用者様の状況や希望に沿った支援ができるよう努め、その人のペースやリズムを大切に生活を送っていただいている。生活全般個別性を重視し過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月訪問理美容が入り、その方や家族様にとって好みの整容がなされている。その際化粧し写真撮影をおこなっている。日常では服を選んでいただくことや化粧の楽しみを支援している。言葉が発せられない方であっても洋服を目で見てもらい、自己決定していただきおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けの工夫やメニューの説明など楽しい食卓の雰囲気作りを心掛けている。月に1度の行事ではユニット合同にて食卓を囲むなどいつもとは違う環境設定に努めている。食器洗いやお盆拭きはご負担のない範囲でおこなっていただいている。	副食は、地産地消に取り組む外部の配食サービスを利用し、炊いた主食と共に盛り付けている。利用者が好まない味付けの時は配食事業所に連絡し利用者本位に検討し改善させている。ホットケーキ等のおやつ作りや敷地内でバーベキューを行い、楽しい「食」支援にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	各ご利用者様に応じた食事形態にて提供 し毎食摂取量や水分量を記録し個々の目 安量と比較し増減ある際は確実に共有し 1日を通じ確保できるよう努めている。 また習慣に応じた個別性を重んじてい る。DRより指示があればその都度対応 の変更をしている。月に1度の体重測定 にて医療との連携を図り対応している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを欠かさず行ってい る。訪問歯科往診を受け、口腔衛生管理 が行われ、歯科医より指導を受けてい る。うがいが出来ない方においては、ス ポンジブラシを使用し、口腔内の清潔保 持に努めている。食前の口腔体操も行い 嚥下機能等の低下予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンのリズムや習慣を把握し、 基本的におむつの使用はしていない。紙 パンツもできるだけ使用せず布パンツで の自立支援をしている。職員は気持ちの 良い排泄について法人内研修にて学び実 践している。前傾保持ができるファンレ ストテーブルも使用しトイレでの排泄を 支援している。	個々の排泄パターンと仕草や表情などを 把握し、トイレ排泄を基本としている。 フロアの3個所のトイレはどの部屋から も近い場所に設置され、夜間もポータブ ルトイレの使用は無い。職員間で話し合 いながら便秘予防に取り組み、時には医 師・看護職員に相談し連携をとってい る。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	座位姿勢での排便（トイレでの排便）を 実施し、個々に応じた水分摂取や適度な 運動、食後のトイレへのお誘い等出来 る限り自然排便ができるよう働きかけて いる。排便困難者を共有し日々対応を柔軟 に実施している。医療職とも連携を図り 便秘予防対策を行っている。牛乳、ヨー グルトなど毎日提供し個々に応じた対応 をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	可能な限り希望に沿った入浴の支援をし ている。時間や場所、曜日等、取り決め は行わず納得の上で自由に入浴して頂い ている。別フロアでの入浴は、形状に合 わせ、今日はどっちで入ろうか等楽しん で選んでいただいている。また出来るだ け同性の職員が介助を行えるようユニッ トを超えて連携を図っている。	入浴の回数や曜日、別フロアの浴室を選 ぶなど利用者の要望に沿う事を基本と し、個々が納得の上で気持ち良く入浴出 来るよう支援している。浴槽の出入りや 浴槽内で立ち上がる時など、安全で自立 支援に繋がる浴室となっている。職員は 状況に合わせた介助や見守りを行ってい る。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居前の生活スタイルを壊さないよう、なるべく家に近い居室空間を作っていた。起床や就寝時間も可能な限り要望に合わせて柔軟に対応している。日々、状況に応じた昼寝や居室での休息が気持ちよくできるようなお声かけ、環境整備にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ケア記録アプリ内に都度、薬情を転送し個々のご利用者様毎に閲覧できるようにしている。また内服薬が変更された際は申し送りにて必ず共有し理解している。症状の変化などが見られた場合には速やかに医師・看護師に連絡を行う体制を構築している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活歴や残存能力を把握した役割の提供に努めケアプランへ反映させ、日々の生活の中で継続しながら達成に向けて支援している。嗜好品や個々の楽しみを取り入れた支援をおこなっている。新聞の購読を楽しまれ、配達を個別で頼まれている方も複数名いる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ5類後、外出支援を徐々に再開している。気候に応じ散歩や近隣のお寺への参拝など希望に沿った対応に努めている。遠方の場合や協力が必要な場合は職員間での日程調整及び家族様へのご連絡等により協力体制を整えた上で実施している。	感染状況の時勢に合わせて、折り鶴タワー・縮景園などへの外出を再開し、日頃の散歩・草取りなど変化のある生活を工夫している。ラーメン店に行きたいとの希望を実現させる等、個別の外出支援にも取り組んでいる。今後は状況に合わせて、日帰り旅行の再開を検討予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	原則、金銭の管理はご利用者様におこなっていただいていない。ただしご希望時にはご家族様同意のもとご購入いただいている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 A棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人様が携帯電話を所持しているケースがある。発信、受診、通話等間に入りトラブルにならないよう努めている。手紙や年賀状等直筆で書いて頂く事を支援し、大切な人との関係を絶やさないようにしている。本人様の希望に沿い、可能な限り家族様との通話を支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースにも空気清浄機・加湿器を設置し快適に過ごして頂ける環境を作っている。季節に応じた旬の花や一緒に製作したものを飾り季節感を出している。生活感のある環境整備に配慮しソファを設置する等、家庭に近い環境づくりに努めている。	職員が制作した精巧な鳥居と、大人がくくれるお多福面を設置し、冬の花やおみくじを飾り、年初めを感じられる空間作りを工夫している。日中は殆どの利用者がテーブル付近の固定の席で過ごし、歌謡曲・体操・クイズ等、ユーチューブ(動画配信サイト)を利用して楽しめる共用空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースには食卓用の椅子の他、ソファを置くことでゆったりと過ごしやすい環境を整えている。また玄関先にもベンチを置き気分を変えて過ごしていただいている。利用者様の希望により家具や席の配置を変え、気の合う仲間同士で思い思いに過ごされるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が自宅で使われていた馴染みの家具や物品を持って来て頂けるよう家族様に相談している。個々が居心地の良い居室環境を整え生活されている。家族様の写真なども飾っていただく等、なるべく入居前のお住まいに近い形で居室のレイアウトをしている。	使い慣れた家具や寝具を持ち込み、遺影・家族写真・写経道具・観葉植物・ジョロロ・ぬいぐるみ・本・カレンダーなどを身近に置き、これまでの生活が継続できるように支援している。家族と協力しながら利用開始前の部屋に似た家具配置・雰囲気や動線に配慮し居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	人感センサーなどを使い、安全に生活できる様配慮している。トイレや居室の位置はわかりやすいように看板や目印をつけている。車椅子の方の目線に合わせた高さを意識し配置している。また入浴や排泄時も安全かつ自立を支援できるような設備の活用に努めている。		

V アウトカム項目( 1階 A棟 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービス事業所としての行動指針・法人の基本理念・運営方針を事業所計画の重点項目として掲げ、各階事務所に掲示し全職員が目の届く位置に配置している。また全職員へ配布しこれに基づいた個々の目標と連動させ実践に繋いでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナも緩和され徐々に地域行事も再開されてきており今後少しずつ参加予定としている。近隣のレストラン等と接点を持つことは開始し、近くの公園や寺院への参拝にも出向き戸外での地域交流が行われている。外周清掃時には地域の一員として日常的に挨拶を交わし関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症実践者研修の受講を積極的に進め、認知症についての理解を深め、お問い合わせや訪問時、面会時等での相談事にも誠意を持って対応している。今後法人内の地域貢献活動への参加を視野に地域の人々への発信を目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の報告や議事録は家族様に必ず報告し、その内容における意見交換を実施している。また地域での取り組みや行事を積極的に取り入れるよう努めている。またコロナ5類後における各所の活動内容を共有しサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険申請等市町の窓口を訪ねた際に関係を構築するよう心掛けている。また推進会議の議事録を東区役所介護保険係宛に郵送している。地域包括支援センターとは密に連携を図り良い関係が築けている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等禁止委員会を設置し、身体拘束の危険性やどのような行為が身体拘束にあたるのか等を、研修や勉強会によって全職員が定期的に学び、ケアにおいて実践するよう周知徹底を行なっている。玄関の施錠も行わず常に空気の通る施設作りを心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を身体拘束禁止委員会と兼ね設置し定期的に研修を重ね学んでいる。どのような行為が虐待にあたるのかを知り問題の解決案を探るなど全職員が共有、周知徹底している。絶対に行わないことを基本とし、撲滅を図っている。また次年度よりの義務化を踏まえ担当者の設置を進めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度の理解を研修等で学び、具体的なニーズが発生した場合は、必要とされる制度利用について分かりやすく説明し、関係者が活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書及び契約書、同意書等提示し、対面にて具体的に丁寧な説明をするようにしている。利用者様自身や家族様からの不安や疑問点等、相手の立場に立ち可能な限り解決に向け話し合い、納得が得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からは日常的に可能な範囲で意向確認をし、家族様からは面会時・メール・電話等で意見を頂戴している。また月に1度のモニタリング時にご意見を伺い反映している。運営推進会議においても家族様からの意見を頂戴し、運営に反映するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者も申し送りノートの確認また個別メモにて個々の意見や要望、提案を聞く機会を随時設けている。リアルタイムで聞き取ることができるよう努め、必ず話し合っって運営に反映している。また必要時にはアンケートをとり全体会議などで集約、反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の評価制度を設け賞与・役割給・昇進・昇格・人材育成等、又異動配置にも反映させる仕組みを整え、やりがいや向上心を持って働ける職場環境となっている。外部研修制度も設け費用の補助が受けられる。リフレッシュ休暇7日連休の取り組みも定着している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	OJT制度を設け、新入職員や中途採用者にも育成のシステムを講じている。法人内での年間を通して組み立てられた研修では、個人の都合で働きながら自由に選べる仕組みとなっている。外部研修補助制度も、意欲やスキルアップを応援する制度が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、近隣他施設へ定期的に出向き情報交換等により連携を図っている。行事など合同開催もしておりネットワーク作りに努めている。コロナ5類に伴い更なる関係構築に努めたい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初回面接時には本人様とのコミュニケーションに重点を置き、サービス利用に関する心情や意向をお聴きしている。また入居時には既入居者との関係構築のため、席の配置や共同での作業、一人の時間等に配慮し職員が間に入りスムーズに馴染んでいただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用開始前、事前面談の段階で、サービスに対する思いや要望等をご家族の立場に立って細かく伺い、思いを汲み、信頼関係を構築するよう努めている。また不安や要望等少しでも疑問に思ったことはいつでも聞いていただけるよう面会時や電話での個別対応もおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時に状況を把握し、入居前には自宅や病院に事前面談に出向き、必要なサービスの提供や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様への尊敬の念を忘れず、意思や人格を尊重するよう努めている。又、ご自分で出来る事はしていただき、出来ない事を職員が手助けをし、自立支援に向けた関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が面会に訪れやすいように環境設定や雰囲気づくりを心掛けている。ご本人を主体に情報交換を行い、ケアに反映することや緊急時の連携等を共有し、共に本人を支えていく関係の構築に努めている。コロナ5類後には外出等ご協力いただき絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ5類後、面会の規制を緩和し続柄における制限を解除し徐々に親族以外の面会等が増えてきた。馴染みの関係性が継続できるよう外出支援も個別的に実施している。また知人や友人に気軽に来所していただけるよう文書や電話連絡をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係性を把握した席配置や会話が弾むよう臨機応変配置交換を行い対応している。各階の垣根をなくし全体での交流が日常となった環境作りを行っている。行事やイベント等も合同で開催し関わりを深め支え合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	管理者交代後サービス利用を終了されている利用者様はいない。終了後も関係性を保ち気軽に双方が相談や支援できるよう利用時の信頼関係を構築しつつでも相談できるよう努めていく。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各ご利用者様の思いや希望を最大限叶えていただけるよう意向の把握に努め反映している。特にお誕生日には外出支援や好みの物を用意するなどしている。意思疎通困難な方も含めて生活歴を把握しご家族の協力をいただきながら個々のご希望に沿った対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用開始前面談にて、ご本人・ご家族から情報をお聞きし、馴染みの生活環境にあったお部屋作りに努めている。生活歴を詳しく知ること、その人らしい生活が送れるようサービスの提供に努めている。(ライフストーリー)		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりのその人らしい過ごし方を現状に即した状況で毎日細やかに観察を行い、記録し・共有している。個々の状態を毎月のミーティングで共有し特に変化のある方に関しては都度柔軟に対応している。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	原則1ヶ月毎のモニタリングを基に、ご家族の意見も反映しつつ職員間で見直しを行い、現状にあったプランの作成に努めている。体調の急激な変化等があった場合は随時見直しを行なっている。また適宜医療スタッフやリハスタッフの意見反映に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活動の記録や介護の実績、本人様の発した言葉や体調などをケア記録アプリに記録し、更に工夫したいことや成功事例等全職員で共有、現場への反映・実践・見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存サービス外のニーズに対しても可能な限り対応している。コロナ5類後においては個別外出支援をはじめ、リハスタッフの導入等、他職種との連携を図りながら、柔軟な支援に努めている。個々の要望を最大限叶えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	周辺のフォーマル・インフォーマルを問わず、医療、消防との共助、連携を図り、安全で快適に暮らしていけるよう努めている。馴染みのある店や場所にランチ外出、行事外出、買い物、ドライブ等、豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医との関係性は継続し、本人様・家族様の希望を傾聴しながら、スムーズな受診ができるよう支援している。専門医への受診は本人様、家族様の要望に添い、納得が得られた受診を心掛け、適切な医療を受けられるよう支援している。家族様の要望で職員が付き添う場合もある。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師が定期的（医療連携にて月2回程度）に来所し、ご利用者の体調変化や状態の変化について職員と共有・連携を図り健康管理を行っている。又、24時間いつでも連絡が取れる体制で医療面での協働を保っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、出来る限り管理者が付き添い日頃の状態や急変時の状態について説明している。また早期退院が図れるよう電話にて関係者と情報交換に努めている。コロナ5類に伴い、入院後も定期的に面会に行き入院先看護師等より情報を頂きスムーズな退院に結び付けていく。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期の意向、方針等をご家族に書面を基に説明をおこなっている。ご家族やご本人の納得のいく終末期となるよう都度、意向の確認を行っている。週に1度はカンファレンスを開催し、関係者が意見交換を行い、方針を共有したチームで支えるケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人内研修にて急変時や事故発生に備えた訓練を定期的に受け、実践につないでいる。医療職とも連携を図り、指導・助言に基づいた落ち着いた対応ができるよう日頃より心がけ実践に活かしている。また管理者及び医療職が24Hオンコール体制をとり職員の不安軽減に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	最低年2回、災害時等避難防災訓練を実施している。消防署の方にも来て頂き、消火器を使用しての消火訓練等指導を受けている。訓練参加が可能な利用者様も職員と一緒にやっている。また運営推進会議を利用し、近隣施設等と意見交換を行い、災害時に備え近隣施設と共助の協定書も交わしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	尊厳の保持を念頭においた言葉かけや対応で、利用者様の人格を尊重している。敬うことを原則徹底し、寄り添い接している。接遇委員会を設置するとともに定期的な法人内研修にて意識付けに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の思いや感情を自由に表出できるような雰囲気づくりを行い、自己決定できるようにし、話しやすい環境を作っている。思いの表出が困難な方へは職員がその人の立場になって考え、思いを汲むようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一律スケジュールに合わせるのではなく、利用者様の状況や希望に沿った支援ができるよう努め、その人のペースやリズムを大切に生活を送っていただいている。生活全般個性を重視し過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎月訪問理美容が入り、その方や家族様にとって好みの整容がなされている。その際化粧し写真撮影をおこなっている。日常では服を選んでいただくことや化粧の楽しみを支援している。言葉が発せられない方であっても洋服を目で見てもらい、自己決定していただきおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けの工夫やメニューの説明など楽しい食卓の雰囲気作りを心掛けている。月に1度の行事ではユニット合同にて食卓を囲むなどいつもとは違う環境設定に努めている。食器洗いやお盆拭きはご負担のない範囲でおこなっていただいている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各ご利用者様に応じた食事形態にて提供し毎食摂取量や水分量を記録し個々の目安量と比較し増減ある際は確実に共有し1日を通じ確保できるよう努めている。また習慣に応じた個別性を重んじている。DRより指示があればその都度対応の変更をしている。月に1度の体重測定にて医療との連携を図り対応している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを欠かさず行なっている。訪問歯科往診を受け、口腔衛生管理が行われ、歯科医より指導を受けている。うがいが出来ない方においては、スポンジブラシを使用し、口腔内の清潔保持に努めている。食前の口腔体操も行い嚥下機能等の低下予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンのリズムや習慣を把握し、基本的におむつの使用はしていない。紙パンツもできるだけ使用せず布パンツでの自立支援をしている。職員は気持ちの良い排泄について法人内研修にて学び実践している。前傾保持ができるファンレストテーブルも使用しトイレでの排泄を支援している		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	座位姿勢での排便(トイレでの排便)を実施し、個々に応じた水分摂取や適度な運動、食後のトイレへのお誘い等出来る限り自然排便ができるよう働きかけている。排便困難者を共有し日々対応を柔軟に実施している。医療職とも連携を図り便秘予防対策を行っている。牛乳、ヨーグルトなど毎日提供し個々に応じた対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	可能な限り希望に沿った入浴の支援をしている。時間や場所、曜日等、取り決めは行わず納得の上で自由に入浴して頂いている。別フロアでの入浴は、形状に合わせ、今日はどっちで入ろうか等楽しんで選んでいただいている。また出来るだけ同性の職員が介助を行えるようユニットを超えて連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居前の生活スタイルを壊さないよう、なるべく家に近い居室空間を作っていた。起床や就寝時間も可能な限り要望に合わせて柔軟に対応している。日々、状況に応じた午睡や居室での休息が気持ちよくできるようなお声かけ、環境整備にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ケア記録アプリ内に都度、薬情を転送し個々のご利用者様毎に閲覧できるようにしている。また内服薬が変更された際は申し送りにて必ず共有し理解している。症状の変化などが見られた場合には速やかに医師・看護師に連絡を行なう体制を構築している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活歴や残存能力を把握した役割の提供に努めケアプランへ反映させ、日々の生活の中で継続しながら達成に向けて支援している。嗜好品や個々の楽しみを取り入れた支援をおこなっている。新聞の購読を楽しまれ、配達を個別で頼まれている方も複数名ある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ5類後、外出支援を徐々に再開している。気候に応じ散歩や近隣のお寺への参拝など希望に沿った対応に努めている。遠方の場合や協力が必要な場合は職員間での日程調整及び家族様へのご連絡等により協力体制を整えた上で実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	原則、金銭の管理はご利用者様におこなっていただいていない。ただしご希望時にはご家族様同意のもとご購入いただいている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 B棟 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人様が携帯電話を所持しているケースがある。発信、受診、通話等間に入りトラブルにならないよう努めている。手紙や年賀状等直筆で書いて頂く事を支援し、大切な人との関係を絶やさないようにしている。本人様の希望に沿い、可能な限り家族様との通話を支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースにも空気清浄機・加湿器を設置し快適に過ごして頂ける環境を作っている。季節に応じた匂いの花や一緒に製作したものを飾り季節感を出している。生活感のある環境整備に配慮しソファを設置する等、家庭に近い環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースには食卓用の椅子の他、ソファを置くことでゆったりと過ごしやすい環境を整えている。また玄関先にもベンチを置き気分を変えて過ごしていただいている。利用者様の希望により家具や席の配置を変え、気の合う仲間同士で思い思いに過ごされるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が自宅で使われていた馴染みの家具や物品を持って来て頂けるよう家族様に相談している。個々が居心地の良い居室環境を整え生活されている。家族様の写真なども飾っていただく等、なるべく入居前のお住まいに近い形で居室のレイアウトをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	人感センサーなどを使い、安全に生活できる様配慮している。トイレや居室の位置はわかりやすいように看板や目印をつけている。車椅子の方の目線に合わせた高さを意識し配置している。また入浴や排泄時も安全かつ自立を支援できるような設備の活用に努めている。		

V アウトカム項目( 2階 B棟 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふれあい戸坂東

作成日 令和6年2月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域行事への参加機会が少なく、地域の一員として不十分である。	事業所と地域との繋がりをコロナ禍以前のような、またはより深い交流に繋げる。	地域の自治会長様や民生員様と繋がりを持ち運営推進会議にて地域行事の再開等話し合い交流を深める。	1 2 か月
2	35	防災訓練において実際の有事の際に地域の方の協力が得られないのではないか。	いざという時に地域の方を含めた協力体制作りを構築する。	運営推進会議にて自治会長様や町民代表者様のお力添えをいただき災害訓練日を地域に発信、訓練時のご協力をいただき関係性を構築する。	1 2 か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。